

報道関係者各位



2020年12月2日  
株式会社キュー・テック

## ロングラン映画作品『三島由紀夫 vs 東大全共闘 50年目の真実』の弊社作業につきまして

株式会社キュー・テック（東京都港区、代表取締役社長：古迫智典、以下キュー・テック）は、今なお公開中のロングラン映画作品『三島由紀夫 vs 東大全共闘 50年目の真実』のポストプロダクション業務を担当し、弊社独自技術『FORS EX PICTURE』による高画質劇場用原版編集を実施いたしました。

～討論会フィルム映像・ニュース記録映像との邂逅が新作映画に～

本作品は、三島由紀夫と東大全共闘が討論会を行った様子を撮影した映像（フィルムやテープ）がTBS様の倉庫から発見されたのを機に企画され、製作幹事であるTBS様と制作プロダクション・ツインズジャパン（『スマホを落とすだけなのに』『糸』等を制作）様から劇場用原版編集の相談を受け、グループ会社メモリーテック（株）と当社でポストプロダクション作業を共同受注した劇場作品です。

TBS様の倉庫で発見されたフィルムと過去のアーカイブ映像、そして新たに撮影されたインタビュー映像を交えた構成となっており、当社では映像素材全体を4K上で制作するワークフローをご提案しました。

発見された16mmポジフィルムはLASERGRAPHICS製フィルムスキャナー『ScanStation』でスキャンを行い、5K・非圧縮・FilmLogの状態で作成。フィルムの持つ映像情報を全て引き出しつつ、最高の画質にてリマスター・カラーコレクション・オンライン編集まで一貫して行いました。

過去素材はSDの素材からHDニュース素材まで多岐にわたり、発見されたフィルムとの同期を取るため、4K化やビデオテープからの24P化など、アップコンバート・フレームレート変換には独自の画質改善変換ツール“FORS”にて処理を行い、専任の技術スタッフの手によりフィルムとアップコンバート素材によるストーリー展開を支える映像表現は違和感のないものに仕上げる様注力いたしました。

新規撮影されたインタビュー素材等に関しても全て4Kで撮影され、カメラLogを利用することで広いダイナミックレンジを担保しつつ、DaVinci Resolve Studioを用いて4Kのままグレーディングを行い、オンライン作業はGlass Valley Rio 4Kで劇場原版を作成しました。すべてのポストプロ作業工程で4K以上の画像サイズを維持しながら素材の画質を追求するべく、非圧縮データで作業いたしました。当社ではグレーディング・オンライン編集のほか、DCP作成・DCPプリントを担当し、ダビング作業は角川大映スタジオ様、配給はギャガ様が担当いたしました。

また、ブルーレイなどのパッケージ作業も当社に発注頂いたことで、劇場制作工程から映像パッケージにいたるまで一貫したワンストップサービスをご提供することができ、劇場のみならず映像の「圧倒的熱量を、体感。」をお伝えするべく作業させていただきました。

～映画『三島由紀夫 vs 東大全共闘 50年目の真実』～

1969年5月13日に東大駒場900番教室で行われた伝説の討論会から半世紀が経ち、三島由紀夫没後50年を迎えるというタイミングもあり、TBS映画部と報道局が立ち上げたコラボレーション企画です。

この討論会は【保守 vs 革新】といった180度違う思想を持つもの同士が言葉の闘いを繰り広げるため、右だ左だと交わることのない平行線をたどる議論を交わす印象を持たれるかもしれませんが、本作品はどちらにも寄らずフラットに描かれているのでモヤッとせず観ることができる構成となっています。

また、思想は違えど国の将来を憂いていることは同じだった三島由紀夫と東大全共闘の討論を振り返り、色々なことに不感症になっている現代人に【今を問う】ドキュメンタリーです。

本作品の劇場公開は100館規模のものでしたが、公開1週目の週間興行ランキングは7位（他のTOP10作品のほとんどは200～300館規模）と好調な滑り出しを記録し、『ぴあ』と『Filmarks』では満足度No.1に輝きました。（3/26記事）また、公開から半年以上経った12月現在でも上映が続いているロングラン作品となっています。



また、この度、報知映画賞に於きまして特別賞を受賞いたしました。

本作品に於きましては、2021年2月26日（金）にブルーレイ&DVDが発売予定になります。

公式サイト <https://gaga.ne.jp/mishimatodai/>

---

本資料に関するお問合せ先

株式会社キュー・テック E-mail : info@qtec.ne.jp